

厚生労働科学研究補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）
分担研究報告書

8. IPF 患者における COPD assessment test (CAT) の測定

研究分担者 近藤 康博 公立陶生病院呼吸器・アレルギー疾患内科 主任部長

研究要旨

IPF 患者において健康指標を示すスコアは少ない。COPD 患者の健康指標として作られた CAT は IPF についても有効かもしれないが、これまで十分に評価されていなかった。今回の検討では、IPF において有用性が言われている SGRQ と CAT の相関について評価した。新規 IPF 診断された 106 症例について検討を行った結果、CAT と SGRQ 総スコアは有意な相関を示した。さらに多変量回帰分析において、CAT は呼吸困難の程度、酸素化障害、不安との関連が認められた。IPF 患者において CAT は有用な健康指標と考えられた。

【共同研究者】

松田俊明、谷口博之、安藤昌彦、木村智樹、片岡健介、阪本考司、鈴木淳、古川大記、長谷川好規

A. 研究目的

COPD 患者の健康状態を評価するための指標として作られた指標に COPD Assessment Test (CAT) があるが、SGRQ と同様に特発性肺線維症 (IPF) に対しても有用であるかもしれない。しかし、現在 CAT が IPF の健康状態を評価する指標として有効かどうかを評価した検討はみられない、本研究では、IPF 患者において CAT による評価の妥当性について検討を行った。

B. 研究方法

新規に診断された IPF、連続 106 症例について評価を行った。評価項目としては、呼吸機能検査、安静時 PaO₂、6 分間歩行試験、CAT、SGRQ、modified Medical Research Council (mMRC)、Hospital Anxiety and Depression Scale (HADS) について診療録より広報誌的に取得した。これら項目について、SGRQ と比較して CAT の妥当性について評価を行った。

C. 研究結果

検討症例では肺機能上は中等度～軽度の拘束性障害を認めた。平均の CAT スコアと SGRQ トータルスコアはそれぞれ 12.8 ± 8.0 と 30.8 ± 17.7 であり、これらの項目は有意に相関関係を認めた ($r = 0.72$, $P < 0.001$)。多変量回帰分析において CAT の独立した予測因子としては mMRC、安静時 PaO₂、6 分間歩行試験時の最低 SpO₂ 値、HADS における不安がそれぞれ選択された。

D. 結論

CAT は IPF 患者の有効な健康関連指標であり、多変量解析では CAT 値は呼吸困難の程度、酸素化障害、不安との関連が認められた。

E. 研究発表

1. 論文発表

1. Matsuda T, Taniguchi H, Ando M, Kondoh Y, Kimura T, Kataoka K, Sakamoto K, Suzuki A, Furukawa T, Hasegawa Y. COPD Assessment Test for measurement of health status in patients with idiopathic pulmonary fibrosis: A cross-sectional study. *Respirology* 2016 in press.

F. 健康危険情報

無し。

H. 知的財産権の出願・登録状況

無し。